

「課題名：放射線治療と分子標的薬の併用例における消化管有害事象に関する多施設調査研究（JROSG）」について

○ 研究の意義・目的

近年、分子標的薬が悪性腫瘍の治療に用いられることが増えています。しかし、放射線治療と分子標的薬を併用した治療を行った場合の副作用については不明な点がまだ多くあります。小腸や大腸が存在する腹部や骨盤部の放射線治療を行った方について、副作用の発生頻度や内容をカルテで調査して、分子標的薬との関連を調べるのが目的です。

○ 研究対象者

平成 25 年 1 月から 平成 26 年 12 月の間に、広島大学病院放射線治療科及び共同研究機関で下部消化管が照射野に含まれる放射線治療を受けられた方を対象とします。

○ 研究方法

本研究は、全て診療録（カルテ）情報を転記して行います。

カルテから使用する内容は年齢、性別、原疾患、放射線治療の内容、放射線治療の前後に併用された薬剤とくに分子標的薬の内容です。（個人が特定出来る情報は転記しません）

以下の機関と共同で研究します。

日本放射線腫瘍学研究機構消化器腫瘍委員会に参加する全国 15 施設（広島大学に情報を集め解析します。）

○ 研究期間 平成 28 年 09 月 29 日～ 平成 30 年 6 月 30 日

○ 個人情報の保護について

調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。

不明な点がございましたら下記のところまでお問い合わせください。

* 研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても今後の診療等に不利益が生ずることはありません。

.....

お問い合わせ先

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

T e l : 082-257-1 5 4 5

広島大学病院放射線治療科 講師 村上 祐司（研究責任者）